

# 声

## 有機廃液部門・無機廃液部門処理技術 指導員講習会の感想文から

この「声」では、環境管理センターへの要望や意見、さらには環境管理、環境一般に関する意見を掲載してきました。本号では、今までとは少し趣向を変え、環境管理センターの技術指導員講習会の際、受講者の方々に書いていただいている感想文の中からいくつかを取り上げ、掲載することにしました。なお、選定は本誌の編集委員会で行い、名前は部局名のみ記し匿名にしました。

### 《理 学 部》

ハロゲン系(クロロフォルム)溶媒の実際の処理を経験しましたが、大量の灯油による稀釈が必要でありこれを燃焼処理することに、ややもったいないという感を否めません。コンスタントに処理すべき溶媒類があるわけではないでしょうから集中的に処理するのは当然と思いますが、あまり大量にたまる前に処分する必要があるなど感じさせられました。

私共の場合、ハロゲン系を使う場合が多く、処理講習はたいへん参考になりました。

一般によごれた溶媒はなかなか再利用することがためらわれますが、用途によっては蒸留などによる再利用をする必要があると思われます。

### 《大学院自然科学研究科》

有機廃液処理の講習と実習を受けて、環境制御のために環境管理センターが果たしている役割の大切さを実感出来た。環境保全のために廃液処理に費される労力と費用の多い事を改めて認識した。

教育研究の過程で発生する廃液をいかに処理して環境制御が行われているのか、学生及び院生にも体験させる事が、各人の自覚を高める上で効果的だろうと思う。科学技術の進歩といっても廃棄物によって環境をそこなう様では本当の人類への福祉とはならない。廃棄物を環境にとって無害なものに出来て、はじめて科学技術の英知と言えるのではないか。教育研究にたずさわる私自身、この事を理解し、学生達に伝えて行きたい。

## 《教 養 部》

今回の講習会に出席して、有機廃液の危険性を知ると同時に処理の大切さを知ることができた。

最近、環境汚染が世界的な問題になっているが、私たちの身近なところから、気を付けなければならぬと改めて感じた。実験における廃液だけでなく、身の回りの生活排水においても、もっと積極的に関心をもって前向きに対応していきたい。

又、有機廃液が処理される段階がいくつにも分かれているのを見ると、“環境を守る”ということとはとてもたいへんだなと思った。

## 《歯 学 部》

今回の無機廃液講習会で、新たに廃液管理の複雑さ、あるいは難しさを知った。例えば重金属の廃液を1つ挙げてみても、有機溶媒が混入している場合では処理の方法が異なる。私達の研究室では銅の水溶液にエチルアルコールが混入している廃液が排出される。このような場合エチルアルコールのみを分留する必要があるとのことであった。廃液の組成のみが既知であれば処理はたやすいと思っていた私には少し驚きであった。処理し易い様に区分して保管すれば、その後が楽だということを知ることができただけでも、今回の講習は有意義だったと思う。

ただ、1つ不満に思うのが、完全に沈殿になった重金属が、コンクリートで固められ、埋めたてに使われるということである。溶出度はチェックしているということだが、長い年月での安全性は……。再利用という方向では考えられないのであろうか。

住みよい地球を守るために、できる限りのことをしたいと思う今日このごろである。

## 《工 学 部》

有機廃液同様無機廃液も実験上不可欠な過程ですが、実際に講習を受ける迄、具体的知識に乏しかったことは否めません。講習を受けたことで特に知識が深まったということはありませんが、廃液に対する意識改革につながったことは確かです。

環境管理という問題は世論的には高まっていますが、実際上どのような対策が行われているかはあまり知られていないのが現実問題であり、常に理屈と現実のギャップがつかまとうものであることを今日実感しました。

実際の現場（処理現場）では、それぞれの過程において健康管理上の問題もあると思います。私も廃液を処理して頂く立場にある者として、実験的にも十分な配慮を行ってゆきたいと考えます。

## 《資源生物科学研究所》

先週、無機廃液を持って来たとき以上に、今回環境管理センターの講習を受けて職員の方々がどんなにたいへんか、少しですが理解できたように思います。今まで自分が何も考えずに廃液を出していたことを反省しています。これからは、少しでも希釈するとか、pHの調整を行う等、研究室の皆に徹底していけたらと思います。

講義についてですが、前半は概要的な話で、技術指導員の資格を得るには、必要不可欠な話ですが、少々退屈してしまいました。ビデオは良かったと思います。また、後半の実際の処理方法については、私自身、知識が乏しいこともありますが、たいへん興味深く聞くことができました。廃液について、ほとんどあるいは全然知識がない人にとっては必要不可欠な話ですが、例えば助手の方等知識が多少なりともある人にとっては、少々もの足らなかったかもしれません。

今後は、講習の経験を生かしていこうと思います。私にとっては、廃液について改めて考えることのできたよい機会でした。

## 《歯学部》

無機廃液も有機廃液同様、岡大環境管理センターでは多大な労力と時間をかけて、きちんと処理されていることがよくわかった。しかし、先日も講習の折お話されていたように、処理された金属は産業廃棄物として、コンクリート等に埋められて埋め立てられるわけで、それ以上処理されることはない。結局、根本的な処理というところまでは、まだ到達していないのだとはっきりわかった。やはり、処理方法のさらなる改善、再利用等にむけて努力しなければいけない。その具体的方法が近い日に開発されることを本当に望む。センターの方や我々利用者がそのことに気づいているならば、夢ではないかも。

我々の部局では、廃液があまり大量に出ないということもあり、廃液に対する認識があまりない。これを期に、きちんと自分達が出している廃液を把握してもらい、今回出された環境問題についても考えを深めないといけないと思う。